



今年度の私立大学(早慶上智理科・GMARCH)・入試動向と変更点

～Benesse 主催 入試動向研究会での情報～

毎年、行われている入試動向研究会に参加して、そこで話があった入試での注意点をまとめてみました。首都圏近隣の私立大学に関する入試動向と変更点です。

<大まかな志望動向>

1. 文系中心に不人気が続いていた系統に回復傾向が見られる。
2. 理系は大幅な増減はなく、理系人気に落ち着きが見られる。
3. キャンパスの移転、科目数の増加などにより、志願者数の増減に影響がある。

<首都圏・私立大学の動向について>

- 早慶上、MARCHでの志望者数を見ると、ここ数年と比較して志望者数の増加が顕著。早稲田大・文、文化構想ではセンターのみ方式が新規実施されるため、国公立大との併願先として注目したい。
- 成城大の入試日早期化、日本大・スポーツ科学部、危機管理学部新設、専修大募集人員増加と16年度入試変更が多数あるので注目したい。
- 求められる学力が近い大学であっても、アドミッションポリシー、PBL(課題解決型学習)導入有無など入学後の学び方はそれぞれ異なる。各大学および学部・学科(専攻)の特徴を調べることも、受験勉強と並行して行ってほしい。
- 早稲田大、慶応大、学習院大で志望者数の増加が目立つ。
- 日本大、東洋大、駒澤大、専修大で志望者数が増加。一方、帝京大などで志望者数の減少が見られる。
- 理系は、大幅な増減はなく、理系人気に落ち着きが見られる。

<早稲田大学>

- ① 8年連続志願者数の微減が続いている早稲田大だが、今回の動向では複数学部で前年度を上回る志望者数の増加が見られた。15年度入試では前年度志願者数を下回った政治経済は対前年比121と全学科で志望者数の増加が見られた。目安としてはC判定値を参考に検討したい(政治経済C判73)。
- ② 新方式である文、文化構想学部センターのみ方式はセンター+一般併用型よりも志望者の集まりが見られる。東京大、京都大、大阪大、一橋大の併願先として検討されている。センターで、9割以上は得点したい。
- ③ 複数学部で志望者数の増加が見られたが、概ねC判定値以下の志望者数が増加している。目安は各学部、C判定値を参考に検討したい。
- ④ 早稲田大の特長として、専門性を重視した学部と学際性を重視した学部が展開されている。“視点を少し変えると”自分がやりたいと思っている学問が他の学部で少し違う形で実現できることもあるので、視野を広げた学部選択を考えたい。

<早稲田大学・文、文化構想・センター 新方式実施>

【文学部】：センター併用方式50名。 ⇒ センター併用方式25名+センターのみの方式25名。

【文化構想学部】：センター併用方式70名。 ⇒ センター併用方式35名+センターのみの方式35名。

センター方式のみ

<試験科目数> 5教科6科目(5教科5科目+選択1科目)。

<必須> 国語、地歴・公民、数学(数I・A)、理科、外国語。

<選択> 地歴・公民、数学、理科。 ※「一般入試」「センター+一般方式」との併願は可能。

<早稲田大学・商・センター 試験科目変更>

【試験科目変更】試験科目数が6科目より、5科目に変更。

なお、選択科目で基礎を付した理科科目を選択した場合は6科目。

⇒ 必須3科目に合わせて、選択科目から2科目を選択する方法に変更。

【必須】外国語、国語、数学(数Ⅰ・A)。

【選択】地歴・公民、数学、理科。

<慶應義塾大学>

- ① 昨年度の入試日変更により、難関国立との併願、慶応大内での学部間併願が強まったことが影響してか、大学全体で志望者数の増加が見られた。
- ② 16年度入試より募集人員が90名縮小される経済は対前年比122と志望者数が増加。15年度に入試において募集人員が縮小された商も同様に対前年比122と志望者数が増加となった。
- ③ 慶応大・薬は私大の併願志望先として東京理大・薬を志望する受験生が多い。16年度入試変更で東京理大・薬は数学の試験範囲を数学Ⅲまで課されることになるので、併願先として検討している受験生は注意して欲しい。
- ④ 15年度入試において、慶応大・商はA・B両方式で合格率40%を超える偏差値がやや上昇。一橋大、東京大など、難関国立大との併願志願者数が増加した。

<慶應義塾大学・経済 募集人員変更>

15年度(A方式(数学選択):480名、B方式(歴史選択):240名)

⇒ 16年度(A方式:420名、B方式210名)⇒90名削減。

<慶應義塾大学・総合政策、環境情報・一般 教科・科目変更>

「数学」「外国語」「数学および外国語」「情報」の4つの中から1つを選択。⇒ 情報が科目選択可能に。

※(慶応大HPより「情報」参考問題 http://www.sfc.keio.ac.jp/joho_sanko_2014_kekka.html)

【出題範囲】

- ・数学B ⇒ 「確率分布と統計的な推測」・「数列」・「ベクトル」。
- ・情報 ⇒ 社会と情報・情報の科学を出題範囲。

<慶應義塾大学・医療看護・一般 選抜方法変更>

15年度:〈1次〉外+(数or理) 〈2次〉小論+面接。

⇒ 16年度:〈1次〉外+(数or理)±小論 〈2次〉面接 (※小論は2次選考で使用)。

<上智大学>

- ① 大学全体で志望者数はやや増加しているが、募集単位別に見てみるとTEAP方式(特に4技能が課される募集単位)においては志望者数の減少が見られた。新設2年目となるTEAP方式だが、文系学科の一部でWriting、Speaking含めた4技能のスコア基準が求められるため注意が必要である。また、合わせて入試問題傾向も異なるため対策にも気をつけたい。試験内容は文章理解力、論理的思考力など、より総合的な力を問う問題となっており400字程度の記述も含む。
- ③ 新設3年目となる総合グロは対前年比107と志望者数が増加。15年度入試ではTEAP方式は2技能が出願資格であったが、16年度入試よりは4技能となるので注意が必要。他学部含めて、課される技能数が2技能なのか4技能なのか整理した上で検討したい。
- ④ 2017年度入試より、TEAP方式は全ての学部、学科で4技能が出願資格として出される。

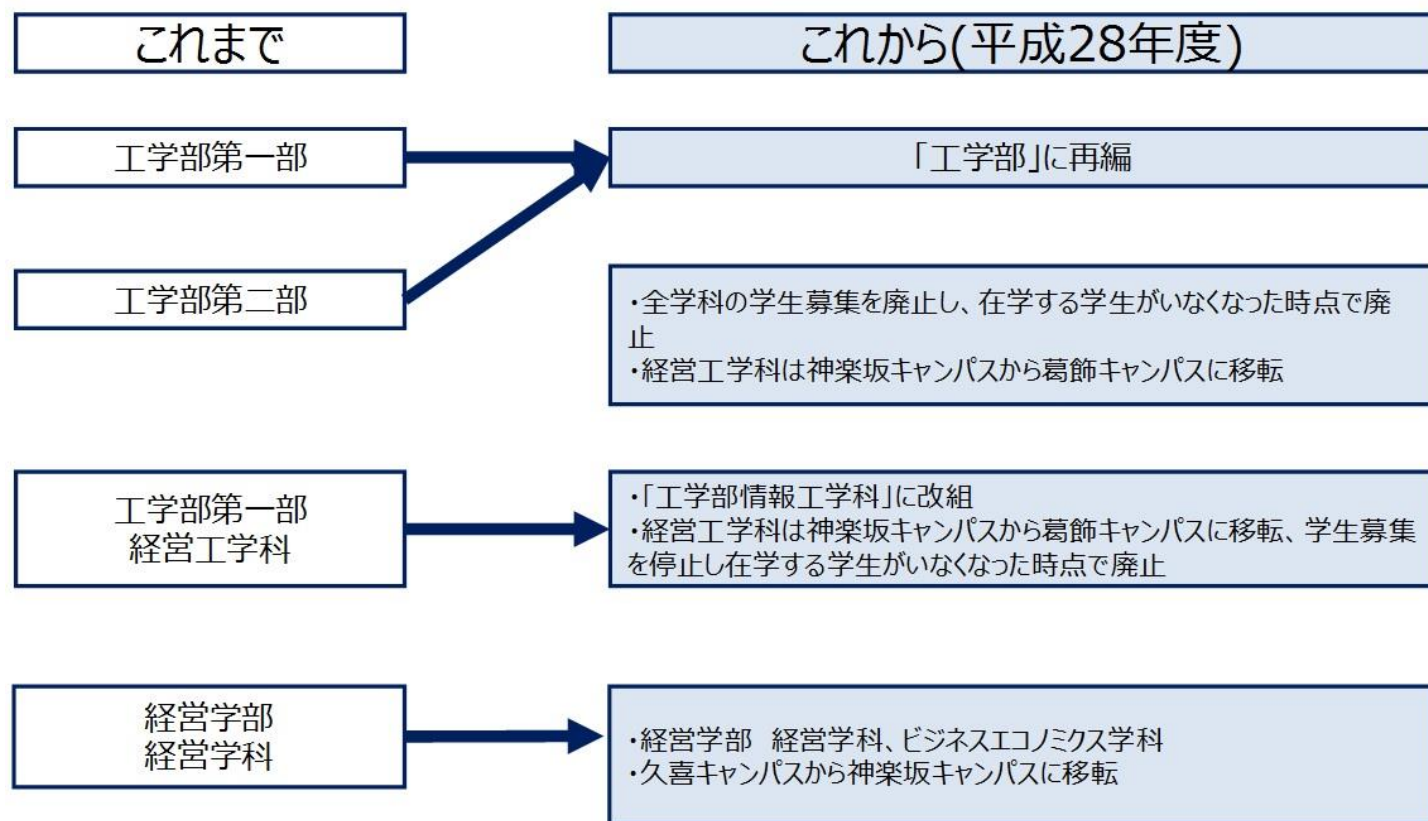
<東京理科大学>

- ① 4年間神楽坂キャンパスとなることを背景にか、経営は志望者数が大幅に増加。16年度より新設されるビジネスエコノミクス学科の志望者数は215名となっている。

- ② 16年度より工・経営工が情報工と学科改組し、キャンパスが葛飾キャンパスへ移転。今回の志望動向で対前年比230と志望者の集まりが見られる。
- ③ 首都圏私立大薬学部系統で、初めて、数学Ⅲまで出題範囲となったことによる負担増が影響してか、薬は志望者数が減少。
- ④ 経営学部はC判定値以上も含めて志望者数が増加。難易が上がる可能性があるので注意したい。一方で薬学部はB判定値に満たない志望者数が減少。

<東京理科大学 学部再編、学科新設 まとめ>

※詳細は各大学HPよりご確認ください。



<学習院大学>

2016年度新設となる国際社会は一般方式募集人員100名に対して、志望者数は1247人と集まりが見られる。参考として、昨年度新設の青山学院大・地球社会〈一般〉は募集人員110名に対して、昨年度の9月マーク動向段階では志望者数568人。国際系統学部の新設初年度としては、志望者数が集まっている模様であり、今後の動向に注目したい。

<明治大学>

- ① 文〈セ〉は16年度入試より、理科が基礎科目まで選択可能になる。今回の動向において負担減の変更が影響してか、文〈セ〉は多くの学科で志望者が前年度を上回る結果となった。目安はセンター得点率85%。
- ② 2015年度入試で実質倍率2倍台となった反動からか、政治経済で志望者数増加が顕著。私大の併願志望状況では立教大・経済、日本大・経済との併願関係強まっている。その一方で、新設されて4年目となる総合数理は志望者数が対前年比93と減少。

<明治大学・文・センター 科目変更>

文学部は理科が基礎科目の選択不可が可能に変更。2015年度〈セ科目〉物・化・生・地。

⇒ 2016年度〈セ科目〉物基・化基・生基・地基・物・化・生・地→1（基礎2を1と扱う）。

<青山学院大学>

- ① 2015年度入試より全学部日程において、青山キャンパスに加えて、新たに、名古屋会場、福岡会場が追加された。今回の志望動向では、試験会場が追加された愛知県、福岡県からの志望者数が増加。
- ② 新設2年目となる地球社会はセンター方式追加にともない、対前年比109と志望者数が増加。また、総合文化・

総合文化政策〈個別B〉は出願資格として外部検定試験が求められる入試となるので注意したい。

＜青山学院大学 主な入試変更点＞

※詳細は各大学 HP よりご確認ください。

大学名	学部名	学科(専攻<コース>)名	日程	方式名	変更点要約	2015年度	2016年度
青山学院大	文	英米文		個別学部B	【個】配点変更	〈個配点〉英のリスニング(配点不明)。	〈個配点〉英のリスニング(200点)。
青山学院大	文	フランス文		全学部	【人員変更】	〈募集人員〉7名。	〈募集人員〉10名。
青山学院大	総合文化政策	総合文化政策		個別学部A	【個】公民の選択不可→可	〈個教科〉国、英必須、地歴・数→1。 〈募集人員〉約90名。	〈個教科〉国、英必須、地歴・政経・数→1 (100点)。 〈募集人員〉約65名。
青山学院大	総合文化政策	総合文化政策		全学部	【人員変更】	〈募集人員〉30名。	〈募集人員〉40名。
青山学院大	経営	経営		個別学部B	【人員変更】	〈募集人員〉約15名。	〈募集人員〉約20名。
青山学院大	経営	経営		全学部	【人員変更】	〈募集人員〉30名。	〈募集人員〉25名。
青山学院大	地球社会共生	地球社会共生		全学部	【人員変更】	〈募集人員〉50名。	〈募集人員〉40名。

「TEAP」出願資格一覧

学部・学科	入学試験種別・方式	TEAP技能種類・出願資格	大学での受験科目	参考 15年度 小論文内容
文学部 英米文学科	一般入試(C方式)	4技能280点以上	国語、地歴	
総合文化政策学部 総合文化政策学科	一般入試(B方式)	2技能100点以上(R/L)	小論文	出題内容 日中韓の友好関係
地球社会共生学部 地球社会共生学科	一般入試(B方式)	2技能100点以上(R/L)	小論文(英語の文章を読み、日本語または英語の論述等を課す)	出題内容 東南アジア諸国の共生 東南アジア諸国が直面する課題

【参考】○上智大・文〈英文〉TEAP方式 4技能280点以上。

○上智大・経済〈経済〉TEAP方式 2技能100点以上。

＜立教大学＞

- 2015年度入試で実質倍率11倍台と高い実質倍率となった異文化コだが、今回の志望動向では前年並。
- 2016年度入試より新たに外部検定試験を課す、グローバル方式が展開される。2月6日に入試があり、併願先として検討したい。
- 16年度入試より、理は〈セ〉〈4教科型〉で国語が現文のみに変更。また、地学選択が不可になる生命理〈セ〉〈3教科型〉〈4教科型〉は志望者数減少。
- 全学部日程【3教科型】とグローバル方式の入試問題は、共通の問題を使用。

＜中央大学＞

- センター方式を新たに実施する法は対前年比124と志望者数が増加。16年度入試では従来のセンター方式5教科型に加え、新たに3教科型を新規実施。目安としてセンター得点率85%以上は確保したい。
- 複数学部で志望者数が増加しているが、併願関係を見ると、明治大、駒澤大、日本大との併願志望者数の増加が見られる。
- 経済に加えて、文、商でも同様にチャレンジ層での志望者数が増加。また、日本大や駒澤大との併願関係に強まりが見られた。法は全体的に志望者数の増加が見られ、厳しい入試が予想される。
- 法学部の16年度入試は志望者の集まりを考慮し、英語の偏差値は67を目安にしたい。

＜法政大学＞

- 2015年度入試において学内で実質倍率の高さが目立ったキャリアは今回の動向においても、対前年比114と志望者数が増加。
- グローバは2012年度入試、2013年度入試で、実質倍率10倍を上回る入試競争が続いたが、ここ2年6倍台以下となっている。2016年度より、新たにT日程方式での受験が可能となったが、今回の志望動向では対前年比120と増加。これにより、全ての学部が2科目で併願受験可能となった。